

住居分野の授業研究会

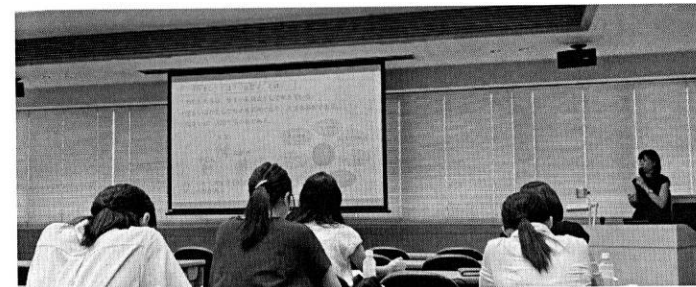
— 生活者の視点から、活動を通して学ぶ —

1 はじめに

地区の研究テーマを設定するにあたり、地区の先生方から様々なご意見をいただいた。その中で、衣食住は家庭科の重要な学習の柱であるにもかかわらず、他の分野と比べて、住生活分野は、教員として学びを深める機会が少ないという意見が多かった。住生活に関する最新の情報や住居の防犯について知りたい、実習を取り入れた住生活学習について知りたいというような意見もあった。そこで、住居学をご専門とする和洋女子大学の金指有里佳氏に、生活者の視点からご講演いただき、住生活分野の学習指導に生かすことをねらいとして研究会を行った。

2 研修計画

- (1) 令和5年5月24日(水) 研究協議・テーマの決定
- (2) 令和5年7月31日(月) 研修会 [会場：和洋女子大学 南館 大会議室]
講師：和洋女子大学 家政福祉学科 助教 金指 有里佳 氏



3 研修内容

(1) 住まいの機能と住生活

①住まいの空間と人との関係

- ア 身長・体重の平均値
- イ 人の身体と空間

演習1 自身の人体寸法

②住まいの種類、住まい方

- ア 戸建住宅・集合住宅
- イ 住まいの計画

演習2 住まいの中の「昔」と「今」

- ・ゾーニングと動線計画

③住まいの部屋の広さ、使われ方

- ・動作空間 ・動作空間から単位空間(部屋)へ

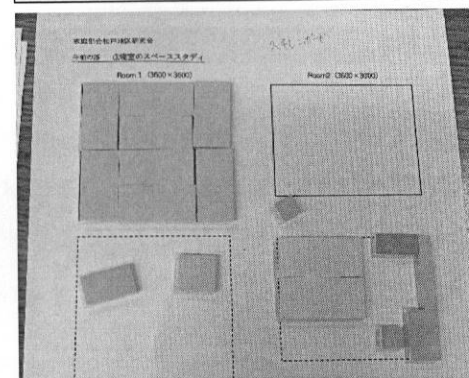
(2) 安心安全な住まい

①日常災害、家庭内事故

- ア 65歳以上の者のいる世帯数の構成割合の推移
- イ 住宅改善の必要性
- ウ 日本の住宅居における主な問題点

- ・住まいの中に段差が多い
- ・幅員が狭い(廊下や通路、出入り口)・身体負担の多い生活様式・温熱環境への配慮不足

演習3 寝室のスペーススタディ



エ 日常災害：家庭内事故

- ・「落下型」墜落、転落 ・「接触型」ぶつかり、はさまれ ・「危険物型」やけど、感電、中毒

オ 家庭内事故の現状

- ・65歳以上の高齢者が多い・家庭内事故の主な死因・高齢者に起こりやすい様々な事故

カ 身の回りに潜む危険・事故に結びつく危険

キ 住生活と室内環境

- ・熱中症 ・冷暖房 ・住宅の証明基準

演習4 高齢者 身の回りに潜む危険・事故に結びつく事故

ク 必要とされる住環境整備

演習5 乳幼児 身の回りに潜む危険・事故に結びつく事故

ケ 家庭における主な子どもの不慮の事故

- ・手動ドアのはさまれ事故の発生場所 ・ベランダからの転落事故防止

②様々な災害と住まい

ア 防災とは、減災とは

- ・様々な災害 ・非常災害：地震

演習6 住まいにおける「減災」

イ 住宅内での対策とは

- ・非常災害：火災

ウ 住まいの防犯

- ・侵入口と侵入方法 ・犯行をあきらめる要素 ・周辺の下見で気にすること
- ・「その気にさせない」「あきらめさせる」「知らせる」

4 考察

今回の講演を通して、住まいの機能、安心・安全な住まい、災害対策など、住生活分野の知識をアップデートし、生徒にわかりやすい授業について考えることができた。住まいの中の「昔」と「今」を書き出す演習は、生徒になったような気持ちで取り組むことができた。家庭内事故の可能性を見つけ出す演習は授業で行うこともあるが、初めて見る資料で演習をしたので、次回はこの資料を使ってみたい。また、「減災」という視点で住まいについて考えることは、新たな発見にもつながった。教科書に書かれていることについて、なぜそのような記述になるのか、たくさんの資料を基に理解することができたことは、大きな収穫であった。

(参加者の感想の一部抜粋)

- ・今までのあいまいな知識の再確認・更新をすることができた。
- ・最新の資料や文献・データを知り、今後の授業で活用していこうと思った。
- ・住生活分野でも生徒が活動して考える実習を取り入れていこうと思った。
- ・保育や高齢者の分野とも結びつけて授業を行いたい。

5 おわりに

より良い授業ができるように、先生方と意見を交わし、各校での実践について聞くことができたことも大変有意義であった。私たち教員自身の知識や理解を深めていくことが、より良い授業づくりにつながっていくので、今後も今回のような研修の機会には積極的に参加し、学びを深めて、授業に活かしていきたい。

最後に、この研修の準備や講義・実習にご尽力いただいた和洋女子大学の金指有里佳氏をはじめ大学の皆様に深く感謝申し上げます。